

行幸啓と国体

＜国体開会式にご臨席になつた両陛下＞



国体を
終つて
熊本県知事
寺本 広作

第十五回国民体育大会は予期以上の盛況裡に、無事その幕を閉じました。特に秋季大会は天皇、皇后両陛下ご臨席のもとに行われ、津島大会々長からは、近来稀にみる立派な国体だと絶賛されました。そして総合成績では本県選手は天皇杯二位、皇后杯三位という、めざましい成果を収めました。一方受け入れ態勢においても、外来のお客様に好印象を与えて国体空前の好評を博しました。

改めて二百万県民の皆様とともに、心からその喜びを分かち、併せて皆様のご協力に厚くお礼を申し上げます。更にこの大会の大きな収穫は、県民の一致団結によつていかに困難な仕事も必ずなし遂げ得るといふ、固い教訓を得たことでもあります。

この信念のもとに、今後益々県勢の発展にご協力下さるようお願い申し上げます。

肢体不自由児とは

…手足の不自由な子供を
育てる運動によせて…

肢体不自由児とは

今年、北海道その他で、脊髄性小児麻痺(ポリオ)が流行し、乳幼児を持つている親御さんに恐怖をあたえ、予防接種用ワクチンが不足して、厚生省も大わらわの活躍でした。どうやらこの流行も下火になりはつとして居るところ。ワクチンの国内生産も、来々、来々になると今までより予防接種を受け易くなります。こういう脊髄性小児麻痺などの病気で、四肢(手足)または体幹(せほね)の機能が不自由で、そのまゝ放置しておくと将来生業を営む上に支障を来すおそれのある児童を「肢体不自由児」といいます。

昔は「不具」とか「片輪」とかいわれていましたが、早く発見すればある程度未然に防ぐことも出来るし、適切な治療、訓練によつて治め又は軽快するもの

肢体不自由児の数と原因

では、この肢体不自由児が何人くらいいるかについては、正確な資料はなかなか得られませんが大体全国で二十三万人から三十万人といわれます。

熊本県では六千八百八十人と概算されていますが、今県下の民生委員さん方の手を煩わして一斉調査を行っていますので、来々になれば、大体の数が固めると

どんな病気が原因になるか

脊髄性小児麻痺―麻痺が起つて初めてこの病気が判ることが多いのですが、初期の治療が大切です。麻痺が残つても数年間は徐々によくなることもありま

以上になると手術をしても幾分びつこが残るので早く見つけることです。先天性奇形―兔唇、口蓋裂、斜頸、内反足、外反足、O脚、X脚、多指症、合指症等があり、適当な時期に治療しなければなりません。骨関節結核―結核性の病気としては、脊椎カリエス、腰、足などの関節結核があり、肺結核と同様、長期間の治療が必要

どんな対策が行なわれているか

療育指導―肢体不自由児やその他身体に障害がある児童に対して、医療、補装具その他についての指導を行うもので、年間一回巡回指導を行うほか、各保健所で適宜御相談に応じています。

育成医療の給付―肢体不自由児のうち、比較的短期間の入院、または通院で不自由を軽減又は解消できる見込みがある時には指定された医療機関で治療を受けられます。この場合、家計状況によつて公費で一部あるいは、全部を負担します。

再春荘)の入院医療について、前項育成医療と同じような制度があります。松橋療護園への入所―長期間の入院治療を要する場合は、所轄児童相談所に入園申込みをした人を措置会議で決定して松橋療護園に収容されています。同園は昭和三十年七月一日開設され、収容定員も五十名から七十名、更に今年度中に百二十名に増床され全国でも屈指の規模になります。こゝで今までに医療と教育を受けた人は三百五十人位で、なお多くの希望者が入所を待ちわびています。入園費用は家計状況により負担額を決定されます。

(衛生部)

全国四十万の
手足の不自由な
子どもたちのために
〈昭和三十六年〉
友情年賀絵はがき
を使いましょう